



9月24日（土）曇りのち晴れ。

丹波の森公苑の里山も実りの秋を迎え、ドングリや栗が実をつけ、塾生が田植えをした稲も黄金色に色づきました。

午前中は、角谷森づくり活動アドバイザーから、公苑内にあるカシワ、アラカシ、クヌギ、コナラ、マテバシイ、クリなどのドングリについて説明を受けた後、苑内の「ドングリの森」にドングリ拾いに出かけました。

今年は、例年に比べ、落ちているドングリの実は少なかったですが、塾生は、一生懸命に拾っていました。

次に、「ピッ栗の森」に移動して、栗拾いを楽しみました。「ピッ栗の森」には、「銀寄」、「利平」、「石鎚」などの品種が植えられており、塾生は火バサミを片手に、実がなっている栗の木の下に行き、落ちている栗を拾いました。みんなで拾った栗は全部で約400個。家族へのお土産としました。



飯盒を使ってゆで栗づくりにも挑戦しました。ゆであがった栗は、スプーンを使っていただき、栗そのものの自然な甘みを味わいました。

昼食は、「ピッ栗の森」で収穫した栗がいっぱい入った栗ごはんとしめじ、エノキ、シイタケなどのキノコ汁に大学イモ。里山の秋の味覚を楽しみました。





午後からは、塾生が5月21日に田植えをしたもち米「ヤマフクモチ」の稲刈りです。田植えの日から数えて126日目、穂が出始めてから40日目です。

藤本森づくり活動アドバイザーから、のこぎり鎌の使い方や稲株の握り方の指導を受け、手刈りにチャレンジしました。初めのうちは、一気に鎌で切ることが出来ませんでした。慣れてくると「ザック、ザック」と手早く、刈り取っていました。



刈り取った稲は束にして、リヤカーに積み、「ビツ栗の森」の中にある稲木の側まで、みんなで力を合わせて運びました。



塾生は、稲木に登って、下から放り上げた稲束を上手にキャッチして、次々と稲木にかけていきました。これから、脱穀をする10月15日まで天日干しをします。

